

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)

A:十分達成できている

B:おおむね達成できている

C:やや不十分である

D:不十分である

学校名	唐唐津東高校
1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	・学力の向上については、目標を概ね達成することができた。生徒の学習の「自走化」が定着し、生徒の主体的な取り組みにつながるような指導計画を構築し、あわせて全体の底上げを目指した。 ・大学入試の結果についても目標を概ね達成することができた。国公立大学、私立大学ともに入試の多様化が進み、年内入試(学校推薦、総合選抜)に対する対策もさらに必要になってくる。多様化する入試形態への対応や生徒個々の把握をしっかりと行い、弱点部分への対策を講じていきたい。次年度も大学入試問題研究や進路指導研修を充実させ、教科指導力の向上と進路情報の把握に努める。 ・心の教育、健康・体力づくりについては、目標を概ね達成することができた。自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図る。あわせて特別支援教育的側面からの生徒支援についても別室登校や配慮申請等の制度の充実を念頭に改善を進めていく。 ・いじめへの対応については、いじめ対策推進法に基づいた対応を実践することができた。組織的かつスピード感をもって初期対応から事後のケアまで一貫した指導を行うことができた。次年度も丁寧な指導を心がけたい。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、概ねその促進は進んでいるが、そのためには業務の精選と負担の均等化が課題と思える。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。
2 SAGAスクール・ミッション 学校 教育目標	○北部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○120年以上の歴史を持つ唐津市の伝統校として、地域の行政機関や各学校、地域の方々と連携した活動の中で、高い志と主体的に生きる力を身に付け、地域や国際社会の発展に貢献できる逞しい人材を育成する。

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度 の重点目標
	①知的好奇心に富み、自ら問題解決を図ろうとする生徒を求めます。 ②学習に対して粘り強く取り組み、自身の目標を達成しようとする生徒を求めます。 ③探究活動などの主体的・協働的な学びに対して積極的に取り組む生徒を求めます。 ④校内外の様々な活動に積極的に参加し、自己の見聞を広めようとする生徒を求めます。	①生徒各自の進路希望実現に向けて、基礎的・基本的な学習を重視し、発展的な学習へとつなげます。 ②ICT活用能力の向上を図り、その能力を活かした主体的な学びの機会を充実させます。 ③総合的な探究の時間に行政機関や大学等と連携し、より実践的な探究活動を行います。 ④中高一貫教育校として、6年間を通して自走化の意識を持ち、努力をしていく生徒育成のために、絶えず教育課程を見直していきます。	①国際社会の発展に貢献するために必要な語学力や、コミュニケーション能力を育成します。 ②地域社会の発展に貢献できる発想力や多様な人々をまとめるリーダーシップを育成します。 ③他者への思いやりに富み、多様性を認めることができる広い視野を持った人材を育成します。 ④急速に変化していく社会の中で、変化に順応し、新しい気付きを積み上げながら逞しく生き抜いていく人材を育成します。	①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成

5 重点取組内容・成果指標					主な担当者
(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			
●学力の向上	○基礎学力の向上○(学校独自重点取組)	○各教科において、授業が学力を高めると考える生徒の割合が80%以上、授業を意欲的に受けている生徒の割合が90%以上、家庭学習に真面目に取り組んでいる生徒の割合が80%以上とする。	・授業の充実と授業時間の確保および効果的な課題を与え家庭学習の定着を目指す。 ・教師間授業参観や教科研修会等を通して情報共有を図り、効果的かつ効率のよい授業を行う。 ・展開授業を行う教科において、習熟度別授業を実施し、基礎学力の向上を目指す。	教務部	
	○生徒に考えさせる進路指導の研究	○放課後特課や長期休業特課の50%以上を選択講座制で実施する。 ○東大・京大・早稲田・慶応の合格者を5名以上、九大を含む難関大学・学部の合格者を30名以上とする。	・各学年の生徒集団に応じた校内の特課や校外学習会への参加を促し、生徒の自律した学習習慣を支援する。 ・大学入試分析会、研究会や校内進路検討会を通して、職員の指導力向上を支援する。	進路指導部	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感、感動する心を持つ生徒の割合を90%以上とする。	・体育大会での団活動やクラスマッチ、学校祭のクラス展示、ボランティア活動、芸術鑑賞会、修学旅行等の特別活動のほか、人権同和教育に関するホームルーム活動や講演会などを通して、生徒が豊かな心を身に付ける教育活動を行う。	教務部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止(定義、防止等への取り組み、事実への対処等)について組織的対応ができていたと回答した教職員を90%以上とする。	・いじめに関する研修会を実施する。 ・「生徒理解協議会」等で出た生徒の様子など情報を共有し「いじめの未然防止、早期発見」への取り組みに努める。	生徒指導部	
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒を75%以上にする。	・佐賀を誇りに思う講演会を実施する。 ・環境ボランティア等のふるさと佐賀を見つめなおす活動を実施する。 ・総探の時間で、唐津市等と連携して地域学を実施する。	総務部	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・食に関する意識調査を実施する。 ・家庭科の授業や保健だより等を通して、望ましい食習慣についての意識啓発を行う。	保健厚生部 教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・週1日6限授業と週1日45分授業を導入し、生徒の自主性を育むとともに業務の効率化を進める。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。	教頭	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・特別支援委員会、生徒連絡会等で生徒の情報共有を図る。	保健厚生部 教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					主な担当者
重点取組			具体的取組		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			
○(独自評価項目・任意)	○★唯一無二の中高交流	○★「鶴城寺子屋」(本校中学生の学習サポート)を校内で年間3回実施する。	・約40名の中学2・3年生に対し、約40名の高校1・2年生が、主に学習のサポートを行う。	進路指導部	
○(独自評価項目・任意)	○★地域の中学生との交流	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合85%以上	★地域の中学生約30～40名を対象に、高校生が主に学習サポートを行う。また、施設見学や部活動見学などを行う。活動を通して、地域の中学生の本校に対する進路意識の向上に努める。 ・生徒会が、企画から運営までを行い、進路指導部とも連携を図る。	生徒会 進路指導部 総務部	
○(独自評価項目・任意)	○DX事業を活用した教育活動	○取り組んだ活動について知っている生徒の割合が70%以上。	・活動を実施する際にDX事業として行っていることを周知する。	総務部	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり					
6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)					